

提言書

（検討議題）

「世界自然遺産を目的とした来訪者の満足度向上」を検討するにあたり、世界自然遺産の保全と活用の観点から、奄美の観光を高付加価値化することにより来訪者の満足度を高めるための取り組みについて議論いたしました。

（現状と課題）

まず、令和4年度に一般社団法人奄美群島観光物産協会が来訪者向けに実施したアンケートのデータをもとに来訪者の満足度の現状を把握したのち、私たちが目指すゴールとして一般社団法人あまみ大島観光物産連盟が策定された「第二次奄美大島中長期観光戦略」に記されている「誰もが訪れたい島、いつまでも暮らしたい島」を“ありたい姿”と設定し、協議を行いました。

その結果、奄美の観光の価値を高めるために最も必要なのは“ハード整備”や“華美な観光商品”などではなく、「奄美は人が良い」「文化を伝えたい」「日々の暮らしこそ宝」など身近なものの過ぎて我々がつい見過ごしてしまいがちなこれらのものではないかとの意見で一致しました。

世界自然遺産となった奄美大島の自然は、大切に守り次世代に伝えていくべき唯一無二の宝です。この宝と人・文化・営み・ストーリーなどが混ざり合い、ここにしかない奄美ならではの価値を生み出しています。ゆえに、世界自然遺産とともに奄美の人々や文化に触れてこそ、来訪者は高い満足度を得ることができるのです。

奄美の観光は、観光事業者だけではなく、生産者や飲食業等サービス事業者、集落の担い手、文化の継承者などコミュニティを形成する地域のあらゆる方々が当事者として関わることによって輝きを増します。ときには世界中から縁を紡いだ方々がその当事者となり奄美への愛着を深めてくれるかもしれません。ここではこうした奄美に関わるすべての人々を「シマッチュ」と呼び、このシマッチュと世界自然遺産がつながることにより、奄美の観光の価値を最も高めていけるものと考えます。

来訪者の皆さん、奄美へ観光にいらしたのならば、シマッチュと出会い、語り、ともに過ごしましょう。シマッチュの皆さん、奄美を選んでお越しくくださった来訪者の皆さんへおもてなしの気持ちを伝えましょう。こうして心の通った「つながり」を持つことは、来訪者にとってもシマッチュにとってもきっと幸せな体験となるでしょう。この目には見えない財産こそが、奄美の観光の価値そのものなのです。

今までに築いた「つながり」を守ること、新たに形成すること、またそれらが持続的に好循環を生み出すために、以下の「つながり」を支援する施策展開を検討していただきたく存じます。

提言1 “世界自然遺産”は“来訪者”との「つながり」で保全と継承を

- ・コロナ前後で大きく変化した観光マーケティング戦略を広く共有する。
- ・奄美は島全体が遺産と呼ばれる価値があり、本物の価値は必ず伝わると誇りを持つ。
- ・来訪者に遺産を守る当事者となっていただくことで、奄美を愛する気持ち(愛着を持つ、また訪れたい、誰かに薦めたい)を高める。
- ・地域の方々が主体となり自然環境の利用ルールづくり(上限人数等)を行う。
- ・自然から得た利益の一部を環境再生に使う仕組みを整える。

提言2 “世界自然遺産”と“シマッチュの暮らし”の「つながり」を伝えよう

- ・自然とシマッチュの暮らしの連続性・一体感は奄美独特であり大きな価値があることをシマッチュに知ってもらう。
- ・シマッチュだけでなく島の外を含めたさまざまな視点でシマッチュの暮らしや文化を見つめ、身近過ぎて見逃しているものが宝となる可能性に気づく。
- ・生活や集落行事を尊重しながら、観光にも活用できるようなルールを地域の方々も一緒になって整える。

提言3 “シマッチュ”と“来訪者”の「つながり」こそが最高のおもてなし

- ・「また“あの人”に会いたくなる」「あなただけに来てほしい」という信頼関係を構築する。
- ・社会情勢の変化や付加価値を適正に価格へ反映し、ひいては賃金にも反映する。
- ・プロダクトアウト(生産者志向)に加え、マーケットイン(消費者志向)の両方の視点を取り入れる。
- ・子どもだけでなく大人も学べる環境を作り、シマッチュが島の魅力を実感し伝えられる仕組みを作る。
- ・青年団や郷友会などシマッチュの活躍の場や、文化を感じられる「見せ場」を創出する。
- ・担い手不足の集落行事は来訪者に担い手となってもらえるような仕組みづくりを行う。
- ・宿泊事業者をはじめとする観光従事者はシマッチュと来訪者を「つなぐ」重要な存在として役割を果たせるよう必要な研修を実施するとともに、観光従事者と住民・集落との関係性をつくる。

今後の世界自然遺産を活用した政策において本提言が“施策の種”となり、「誰もが訪れたい島、いつまでも暮らしたい島」の実現に寄与することをご期待申し上げます。